

基本情報						
教科・科目		数学・数学Ⅲ（理系特進）		・授業で使用するもの テキスト（数学の良問問題集 等）、補助プリント		
担当者		佐野				
評価割合（試験：試験外）		試験：6 試験外：4		試験外の40%は、小テストやレポート課題などで判断する。 数学は自らの考えを書くことにより表現する学問であるので、丁寧な解答の記述など、考えの足跡を残すことを積極的に評価する。		
年間を通じて教科で培う力		鍛錬（知識及び技能）		具体的な事柄や事象についてモデル化する、一般化する、批判的に捉えるなど、事象を数学的に解釈し、数学的に表現、処理する力を培う。また、多様な事象を数学的に表現・処理するために必要な式の計算の仕組みや関数、図形の性質等についての理解を深める。		
		理知（思考力・判断力・表現力等）		直観や論理的な思考をもとに、事象を定義化したり定理を導いたりしながら課題の解決を図るとともに、多様な考え方について論理的整合性について議論し、その正誤について知的なコミュニケーションを通して受け入れることができる。		
		探求・観智（主体的に学習に取り組む態度）		社会での数学の役割に気づく、数学的な思考のよさを実感することを通して、数学の学習の意義を高めながら、自身で課題設定を行い、主体的に学習する態度を養う。		
学習情報						
月	回	単元名	単元目標（到達状態）	学習内容	活動内容	評価方法・ポイント
4 5	20	複素数平面	<div>□ 複素数を平面上の点やベクトルなどを用いて捉え、計算の意味や図形的な性質を理解することで、代数的・幾何的な見方を関連付けて活用できるようにする。</div> <div>□ 回転・拡大などの表現を通じて複素数の理解を深める</div> <div>□ 複数の概念を組み合わせた問題や図形との関係性を考察するような発展的課題にも、筋道を立てて取り組む姿勢を育てる。</div>	<div>□ 複素数平面の出現と概念理解</div> <div>□ 極形式、ド・モアブルの定理</div> <div>□ 図形への応用：平行移動や回転、拡大、対称移動に対応する計算と視覚的理解</div> <div>□ 応用・融合問題：高次方程式の解法、図形問題との融合、ベクトルをはじめとする他の既習分野との関連付け</div>	<div>・講義</div> <div>・問題演習（個人、グループ、1対1での添削）</div>	<div>・小テスト</div> <div>・レポート課題</div>
6	定期試験① 令和8年 6月3日—6月5日					
6 7	20	問題演習 (IAIIBC[ベクトル])	・問題演習を通して、単元や定義の理解を本質的なものに近づけた上で、単元を横断した課題や、実生活への利用を意識した文章題など、応用的な問題に取り組むことができるようになる。	小テストの結果や模試の得点率、で単元毎の習熟度を確認し、決定する。 共通テストの形式と記述形式の問題の両方を扱う。	<div>・講義</div> <div>・課題演習</div> <div>・グループワーク</div>	<div>・授業内課題への取組</div> <div>・グループでの取組</div> <div>・小テスト</div> <div>・定期試験</div>
7	定期試験② 令和8年 7月15日—7月17日					
7～ 1	46	問題演習 (IAIIBC[ベクトル])	・問題演習を通して、単元や定義の理解を本質的なものに近づけた上で、単元を横断した課題や、実生活への利用を意識した文章題など、応用的な問題に取り組むことができるようになる。	小テストの結果や模試の得点率、で単元毎の習熟度を確認し、決定する。 共通テストの形式と記述形式の問題の両方を扱う。	<div>・講義</div> <div>・課題演習</div> <div>・グループワーク</div>	